



非行防止決意宣言を読み上げる笠井さん

自分たちの手で地域の安全を守る

4月19日、市商工会館で「春の安全・安心まちづくり推進大会」が開催され、防犯ボランティア団体や警察官ら約70人が、犯罪のない明るいまちづくりへの決意を新たにしました。

大会では、防犯指導隊の手嶋成信総隊長が「防犯ボランティアの中核として、街頭犯罪を抑止する活動を推進します」と決意表明。市JUMPチームを代表して笠井樹さん（木造高3年）が「自分たちの力を大いに発揮し、非行のない明るい社会づくりに貢献することを誓います」と宣言しました。

大会終了後には、パトカーを先頭に青色回転灯を装着した自主防犯パトロール隊の車両が市内を巡回し、防犯意識の向上を呼び掛けました。

みんなでごみのないまちづくり

4月22日、「第14回クリーン作戦in車力」が行われ、地域住民約90人が道路沿いのごみ拾いに精を出しました。

3班に分かれた参加者は、むらおこし拠点館「フラット」の周辺から車力漁港までの道路などを清掃。時折強い雨が降る悪天候となりましたが、道路わきに捨てられた空き缶やペットボトルなどのごみを丁寧に拾い、2トントラック2台と軽トラック1台がいっぱいになるごみが集まりました。

この日は、車力中学校の生徒44人も参加。高坂佳蓮さん（3年）は「ごみが多い現状がわかりました。これからもボランティア活動を増やして、みんなできれいにしていきたい」と話していました。



雨の中ごみ拾いに精を出す車力中の生徒ら



中山局長から感謝状が手渡されました

住民サービス向上への取り組みに感謝

市民の確定申告データをe-Taxで税務署へ送信する「データ引き継ぎ」をつがる市が積極的に利用開始したとして、中山峰孝仙台国税局長から福島市長に感謝状が贈られました。

データ引き継ぎは今年1月から可能となった方式で、つがる市は県内1位、東北2位となる3,349件をデータ送信。これまで申告の際に必要な添付書類を省略でき、還付金も約3週間早く受け取れるなどのメリットがあります。

4月25日、市役所を訪れた中山局長は「他に先駆けて導入していただき、いいモデルケースになった」と感謝の言葉を述べ、福島市長は「住民サービスの向上と経費削減にもつながる。この体制でがんばっていききたい」と答えていました。

つがるブランドを推進

つがるブランド推進会議（福島弘芳会長）の平成29年度総会が4月28日、松の館で開催されました。総会では、新年度の事業計画などを承認。今年は、全国のメロン産地が一堂に集結する「全国メロンサミット」（7月8日、9日、山形県鶴岡市）へ初参加し、2万人の来場が見込まれる会場で市産メロンをPRします。また、全国メロンサミット実行委員会が定める「毎月6日の“メロンの日”」が紹介されました。これは「6」がメロンの形に似ていることから、各産地が希望する月の6日をメロンの日に制定し、メロンの消費を促すことを推奨するものです。市では、主力品種タカミメロンの出始めにPRするため、7月6日を「つがる市メロンの日」とすることになりました。



新年度事業計画などが話し合われた総会

笑顔でおはよう！ 森田地区「春のあいさつ運動」

5月15日から17日の3日間、森田中学校、森田小、育成小の合同による「春のあいさつ運動」が行われました。

森田地区では、昨年の秋から3校合同で運動を実施しており、「のぼり旗」も森田中の卒業生がデザインしたものを使用するなど、盛んに運動を展開しています。期間中は、早朝から保護者や教職員延べ130人が参加。校門前や通学路上の交差点など6カ所に分かれ、登校する児童生徒と笑顔であいさつを交わしていました。

参加した鶴賀谷壮史さんは「あいさつを通じて、地域のみんなで子どもたちの成長を見守り支えている。今後も小中連携でもっといい活動にしていきたい」と話していました。



生徒とあいさつを交わす参加者



「花は咲く」を披露する木造高校吹奏楽部

被災地の子どもたちに笑顔を

5月20日、実相寺（木造千代町）で「第5回震災遺児支援チャリティコンサート」が開催され、約200人の聴衆が雅楽と吹奏楽の演奏を楽しみました。第1部は、日蓮宗雅楽会（渡辺貫誠会長）の9人が古典楽器の優雅な音色を披露。第2部では、木造高校吹奏楽部の31人が、お馴染みの歌謡曲などを力強く演奏したほか、復興支援ソング「花は咲く」を手話と合唱を交えて披露しました。主催した間宮秀文副住職は「震災から7年。7回忌を一区切りにしないほしい」と話し、今後の支援を呼び掛けました。中泊町から訪れた古川郁子さん（中里小5年）は「初めて聞いた雅楽はとてもきれいだった。木高の吹奏楽はすごく近くて迫力があつた」と話していました。

田植え農家を激励

高品質の米作りを推進するため、福島市長や西北地域県民局、農協関係者らが5月19日、市内の水田を巡回して田植え農家を督励し、適切な水管理などを指導しました。

この日は、稲垣地区の蝦名賢造さんと黒滝彰さんの水田を訪問。「つがるロマン」などを作付けする蝦名さんの水田では、福島市長も田植え機に同乗し作業を体感。「けがの無いように作業をがんばってください」と労っていました。

「青天の霹靂」などを作付けしている黒滝さんの水田では、「今年も天候に恵まれ、作業は順調」との報告を受けた福島市長は、「いい出来秋を迎えられますよう期待しています」と激励していました。



蝦名さんの田植え機に同乗する福島市長



ホタルの幼虫を放す園児たち

「おおきなあれ」願いこめてホタル放流

つがる地球村の自然学習公園（藤山邸の園庭）で5月23日、「ほたるの放流会」が行われ、もりた保育園（田中潔園長）の年長児18人がホタルの幼虫150匹を池へ放流しました。

園児たちは、ヘイケボタルの幼虫と餌のカワニナが入った容器を手に「大きくなあれ」と優しく声をかけながら放流。相馬琉葵君は「水に放すのが楽しかった。光って飛ぶのが楽しみ」と成長を心待ちにしていました。

この放流会は、訪れる方にホタルの光を楽しんでもらおうとつがる地球村が毎年実施しているもので、今年で9回目。7月中旬から下旬頃まで、淡い黄緑色に光る幻想的な姿が見られるとのことです。